

日本触媒

# 株式会社日本触媒 決算説明会資料

2019/11/8

代表取締役社長 五嶋祐治朗

# 後半中期経営計画「新生日本触媒2020 NEXT」

および

## 2020年3月期第2四半期決算説明

---

# 目次

## 後半中期経営計画「新生日本触媒2020 NEXT」

1. 概要
2. 重要課題に対する施策
3. 持続的成長に向けて

## 業績動向他

4. 2019年度 上期業績
5. 2019年度 通期見通し
6. 利益還元策

### 用語解説

SAP : 高吸水性樹脂  
AA : アクリル酸  
AES : アクリル酸エステル

## 1. 概要

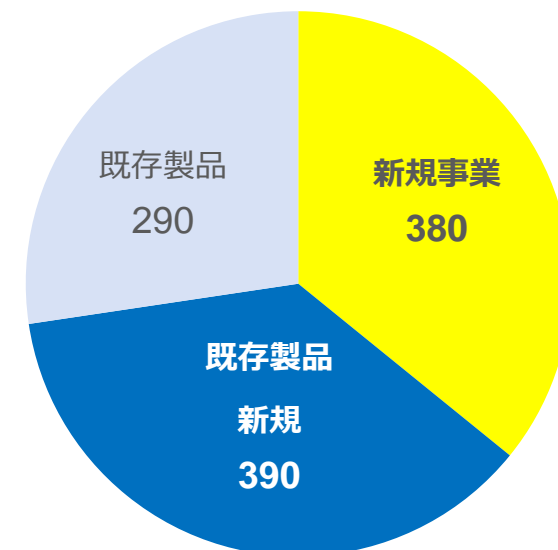
## 2020年のあるべき姿 数値目標 (IFRS)

売上収益 4,000億円

期間中の売上増加額：1,060億円

(売上収益：2016年度2,940億円→2020年度4,000億円)

税引前利益 400億円 (売上収益利益率10%)

ROA 7.4% (日本基準 7.5%)  
(資産合計税引前利益率)増加額1,060億円内訳  
(単位：億円)

## 【2020年度定量目標：前提条件】

	国産ナフサ価格	為替(US\$)	為替(EUR)
長期経営計画(2014年策定時)	65,000円/kL	100円	130円
後半中期経営計画	42,000円/kL	110円	115円

※2019年度より、IFRSを任意適用しています。

# 1. 概要

2025年のありたい姿

## 「人の暮らしに新たな価値を提供する革進的な化学会社」

※革進：旧習・旧態を改めて、進歩を図ること（出所：大辞林）

### 基本指針

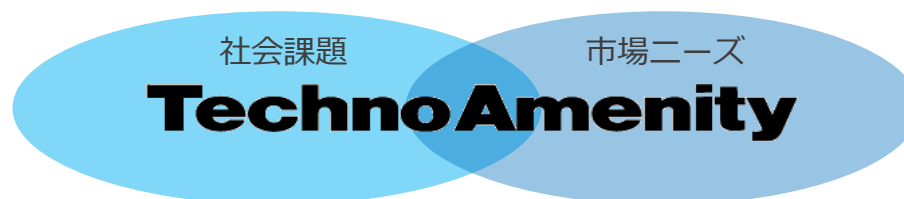
- ◇売上規模よりも収益性を重視
- ◇安全・安定な生産活動

### 重要課題

- ◇SAP事業を死守する
- ◇成長事業・分野へのシフトを進める

### 基本姿勢

世の中で求められる製品やサービスを創造し、タイムリーに提供する



### 重要課題に対する施策

#### SAP事業の競争力強化

- ・収益改善（サバイバルプロジェクト）
- ・開発力強化

#### 新規事業・新規製品の創出加速

### 持続的成長に向けて

人と組織の活性化

社会からのより一層の信頼獲得

グループ経営の強化

## 2. 重要課題に対する施策①

### SAP事業の競争力強化

#### AA(AES)需給動向

需要 世界需要 約680万トン（2019年推定）  
**中期的に年率5%程度の成長を想定**

供給 2020年 増設計画世界合計 約70万トン/年  
 2021年 増設計画世界合計 約10万トン/年  
 2022年 増設計画世界合計 約30万トン/年

- ・ 足元の需要は弱い、中長期的には需給バランスは改善していく方向である。

#### SAP需給動向

需要 世界需要 約300万トン（2019年推定）  
**中期的に年率5%以上の成長を想定**

供給 2020年 増設計画世界合計 6万トン/年  
 2021年 現時点で増設計画は発表されていない  
 2022年 現時点で増設計画は発表されていない

- ・ 足元、需要が弱い中、ユーザー側、供給側ともに競争が激しくなっている。
- ・ 中長期的には需給バランスは改善していく方向である。

- ・ 中長期的には、AA、SAPとも引き続き安定的な成長が見込まれる

## 2. 重要課題に対する施策①

### SAP事業の競争力強化

#### ◆ 当社グループの強み

- ・原料アクリル酸(AA)も製造する、垂直統合の強み
- ・有力顧客との関係

#### ◆ SAPサバイバルプロジェクト

- ・AA/SAP生産性の向上
- ・メンテナンス効率化、物流効率化 等

#### ◆ グローバル供給体制の強化

- ・ベルギー AA、SAP各10万トン/年 新設備
- ・インドネシア AA10万トン/年 増設決定(2021年3月末完工予定)



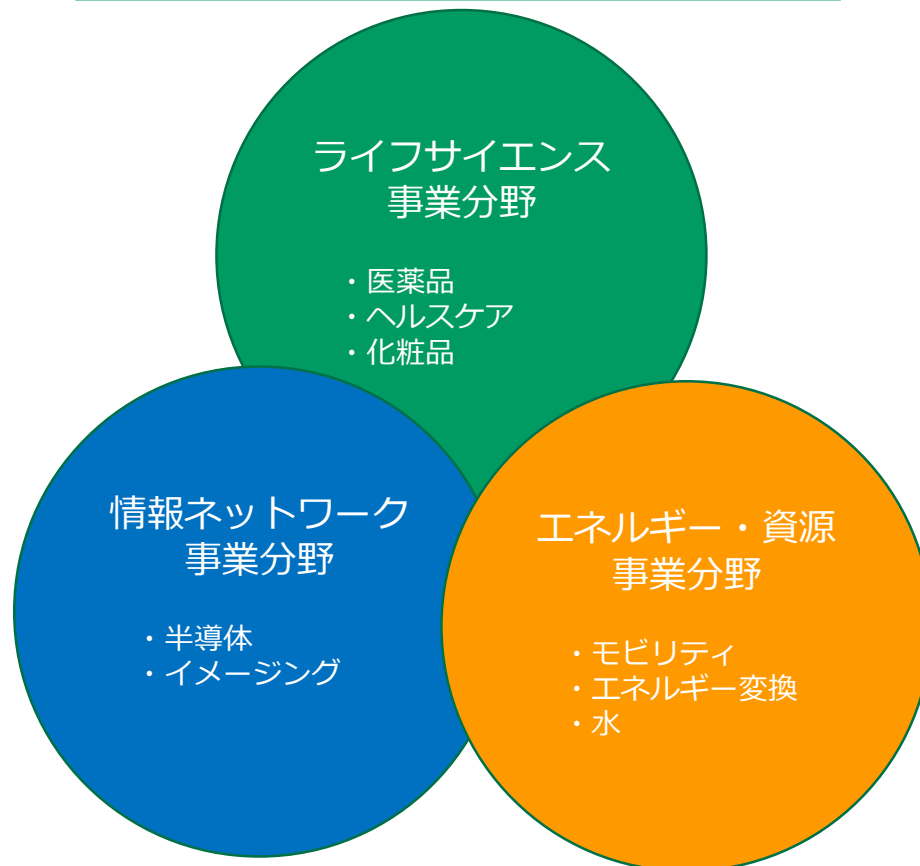
AA/SAP事業トータルでSAP事業の競争力強化を推し進める

## 2. 重要課題に対する施策②

### 新規事業・新規製品の創出加速

事業の  
「市場性」「適社性」「社会性」で  
新規事業ターゲットを選定

#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





## 2. 重要課題に対する施策②

### 新規事業・新規製品の創出加速

ライフサイエンス  
事業分野

- ・医薬品
- ・ヘルスケア
- ・化粧品

3 すべての人に  
健康と福祉を



#### 化粧品領域

##### ・製品販売開始(2019年4月～)

GREENTECH社(仏、天然素材大手)と事業提携を進めるための覚書締結

ナノ・キューブ・ジャパン社と事業提携

備前化成社と共同開発契約

ライラック・ファーマ社と共同開発契約

#### 医薬品領域

##### ・中分子原薬合成施設(吹田) 完工し、商業 運転に向け準備中

※当該領域において国内有数の製造規模

##### ・TAK-Circulator株式会社との業務提携 お よび 第三者割当増資引受

## 2. 重要課題に対する施策②

### 新規事業・新規製品の創出加速

情報ネットワーク  
事業分野

- ・半導体
- ・イメージング

エネルギー・  
資源事業分野

- ・モビリティ
- ・エネルギー変換
- ・水

#### モビリティ領域

イオネル® (LiFSI)

電池用次世代電解質

メチレンマロネート類

次世代塗料原料

セミコマーシャルプラント設備検討中(米国)

#### イメージング領域

AOMA®

曲面印刷領域に優れるUV硬化材料

iOLED®

紙より薄い有機EL



#### 半導体領域

高次シラン材料

半導体プロセス用モノマー

#### エネルギー変換領域

エネルギー貯蔵分野向け素材

#### 水領域

海水淡水化・廃水処理向け素材

## 2. 重要課題に対する施策②

### 新規事業・新規製品の創出加速

#### 既存注目製品：増設案件の進捗

異種重合性モノマー（VEEA<sup>®</sup>） <UVインクジェット材料>

2019年12月完工予定(姫路)

オキサゾリン基含有ポリマー（エポクロス<sup>®</sup>） <水系架橋剤>

2018年8月完工(姫路)

ポリエチレンイミン（エポミン<sup>®</sup>） <水処理・顔料分散剤>

2019年9月完工(川崎)



- ・ 独自技術で開発した高機能化学品は、計画通り設備増設している
- ・ 拡販を進める

## 3. 持続的成長に向けて

### CSR活動の推進

当社CSR活動の推進は  
グループ企業理念 **TechnoAmenity** の実践そのもの



**TechnoAmenity** レポート発行  
統合報告書様式（8月発行）

**ESG情報 開示強化**(2018年度下期～)  
ESG主要データ公表(HP)  
<http://www.shokubai.co.jp/ja/csr/esg/>

## 4. 2019年度 上期業績

(単位：億円)	2018年度	2019年度	
	上期実績	上期実績	7/31修正値
売上収益	1,690	1,533	1,550
営業利益	131	66	75
税引前利益	165	87	90
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	121	57	70
ROA (資産合計税引前利益率)	6.8%	3.7%	ND
ROE (親会社所有者帰属持分当期利益率)	7.7%	3.6%	ND
国産ナフサ価格	51,200円/kL	42,800円/kL	43,700円/kL

※ROA、ROEは年換算しております。

### 前期比、減収・減益 (7/31修正値も下回る)

- ・売上収益 減収： 原料価格や製品海外市況下落、数量減
- ・営業利益 減益： 加工費増、数量減
- ・税引前利益 減益： 持分法投資利益減少

## 5. 2019年度 通期見通し

	2018度	2019年度		
(単位：億円)	通期実績	上期実績	下期見通し	通期見通し
売上収益	3,389	1,533	1,717	3,250
営業利益	262	66	109	175
税引前利益	321	87	123	210
親会社の所有者に帰属する 当期利益	238	57	103	160
ROA (資産合計税引前利益率)	6.7%	3.7%	5.2%	4.4%
ROE (親会社所有者帰属持分当期 利益率)	7.5%	3.6%	6.4%	4.9%
国産ナフサ価格	49,400円/kL	42,800円/kL	40,000円/kL	41,400円/kL

通期：減収減益      上期→下期：増収増益      を見込む

<通期>      ・ 営業利益 減益      スプレッド縮小、加工費・販管費等増 > 数量増  
 ・ 税引前利益 減益      持分法投資利益減少

<上期→下期> ・ 数量増

## 6. 利益還元策

事業拡大や企業体質の強化等を総合的に勘案しつつ、  
連結業績の動向を見通し、中長期的な水準向上を目指した配当を行う

2018年度配当  
当期利益 238億円

170円/株

前期より10円/株 増配  
過去最高配当額

円/株	中間	期末	合計
普通配当	80	90	170

2019年度配当（予想）  
当期利益 160億円

180円/株

前期よりさらに10円/株 増配  
過去最高配当額を更新  
〈当初計画据え置き〉

円/株	中間	期末	合計
普通配当	90	90	180

	2010～19年度平均	2018年度	2019年度
配当性向	28.0%	28.4%	44.9%

本資料は、投資判断の参考となる情報提供を目的としているものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。また、記載されている内容は、資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した内容を含んでおり、記載された内容を確認したり、保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、異なる結果となる場合があります。

お問合せ先：

株式会社日本触媒 IR・広報部

東京都千代田区内幸町1-2-2 日比谷ダイビル

TEL： 03-3506-7605

FAX： 03-3506-7598

URL： <http://www.shokubai.co.jp>